

- 立科小学校/午前9時～午前11時30分
電話 56-3131 (呼)・有線2190 (呼)
- 立科中学校/午後2時～午後5時
電話 56-1076 (呼)・有線2251 (呼)
- 立科町児童館/
午前 11時40分～午後1時30分
電話 56-0303 (直通)
有線 8889 (直通)

※予約をされる方は児童館または小・中学校の
教頭先生へご連絡をお願いします。

大人がしっかりしましょうよ……

～成長モデル放棄(?)の年

平成28年を振り返って～

立科町教育相談員 岩上起美男

あらためて、殊更に申し上げるのは妙な気がしますが、日本の教育は、「人格の完成」を目指しています。

教育基本法第1条(教育の目的)

教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

〔平成18年12月22日施行〕

昭和22年に制定された旧教育基本法にも、「人格の完成」が教育の目的の冒頭に位置付けていましたので、戦後の混乱期から今日に至るまでの約70年、日本の教育は、「人格の完成」を究極の目的として営まれています。

この点、多くの国が、教育の目的を「社会の進歩や技術革新に対応できる人材の養成」と位置づけているのと大きく異なっているそうです。

経済協力開発機構(OECD)が実施している「学習到達度調査」で、何度も学力世界一になり、世界各地から教育視察団(その約半数は日本からとのこと)が押し寄せているフィンランドも、若い学習者が、「社会と労働生活の変化に対応する学習のためのスキル(技能)と知識、情報を平等に獲得すること」を教育の主な目的としているそうです。

このような違いは、その国の文化や伝統によるもので、決して彼我のいづれが優っているか、劣っているか、という問題ではなく、教育に対する考え方の違いととらえるべきなのでしょう。

と申しますのは、程度の差こそあれ、どの国の教育事情にも必ずや「光」と「影」があり、世界の多くの国が範とするフィンランドの教育においても、教師中心主義に対する子どもたちの不満や生徒の自治・自律の弱さ、稀薄な友情関係、不徹底な女性の社会進出などの課題が指摘されているからです。

教育の目的を「人格の完成」におくことは、実用性よりも精神性や道徳性を重んずる日本特有の考え方で、日本の教育の大きな特徴であるそうです。

しかしながら、抽象的な目的であるのも確かで、人格とは何か、人格が知徳体の総体であるならば、それらがどのレベルに到達すれば、人格が完成し、目的が達成したことになるのか、その見極め(評価)が非常に難しいという一面もあります。

反面、やはり多くの方が、その抽象的な目的を是とし、抽象的であるが故に、一人一人の個性を尊重し、個々の内面を大切に、目的の到達評価を個人に委ねる幅広さを保障している、と受け止めて

ているのではないのでしょうか。

「人格の完成」が個人にかかわる教育の目的としますと、その一方において、教育には、現在の社会の制度や仕組み、秩序を維持し、社会をさらに発展させるために不可欠な二つの目的があります。

その一つが、「社会同化」です。

「社会同化」とは、交通社会の例で申し上げますと、今現在の交通の法規やマナーを身に付け、交通社会の一員としての自覚を持って、交通事故や交通違反をおかさないように生活すること、すなわち、今日の交通社会に適応することです。もう一つの目的が、「社会進化」です。

「流水不腐」(流れる水は腐らない。)という先人の教えの通り、社会は、若い世代が今ある社会に同化するだけでは滞ってしまいます。社会にとって、同化という現状維持は停滞や衰退を意味しますので、より良い社会を築くためには、教育によって、社会の質を高め、進化させる必要があります。

教育は、人類の共存共栄のために、子どもたちが、社会に同化し、社会の一員として社会の更なる進化に寄与する目的で行われているのです。

平成28年を振り返って、前述のような教育の目的と、今年起こった様々な出来